

バックナンバーは「GUNMAS」および当センターHP (<https://mec.dept.showa.gunma-u.ac.jp/>) に掲載しています

各部門の活動報告

スキルラボ部門

医学科オープンキャンパスを開催

8月8日、12日、13日の3日間、医学科オープンキャンパスの一環として「スキルラボセンター・シミュレータ体験&研究室見学ツアー」を実施しました。全国から延べ219名の高校生が参加し、グループごとに医療体験や基礎研究室の見学を行いました。

スキルラボセンターでは、眼底鏡・腱反射・聴診などの診察体験、超音波・内視鏡などの検査体験、腹腔鏡・遠隔操作手術などの治療手技に加え、3D解剖実習や感染予防実習、分娩介助、心肺蘇生法など、多彩なプログラムが実施されました。

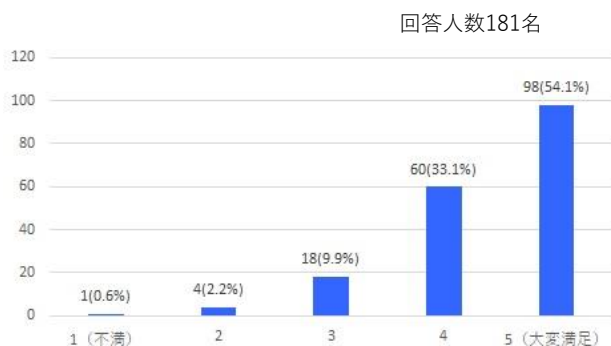
基礎研究室では、ゲノム医療や次世代シーケンサーなどの最新研究設備の見学、公衆衛生学の講義、顕微鏡観察等が実施されました。参加者はツアー形式で各所を巡り、熱心に取り組んでいました。また、医学科生がサポート役として案内や誘導を行い、ツアー後の懇談会では学生生活に関する質問が多数寄せられました。

アンケートでは8割以上が「大変満足」「満足」と回答し、医療職への関心を高める貴重な機会となりました。ご協力いただいた先生方、医学科生、関係者の皆様に、この場をお借りし心より御礼申し上げます。

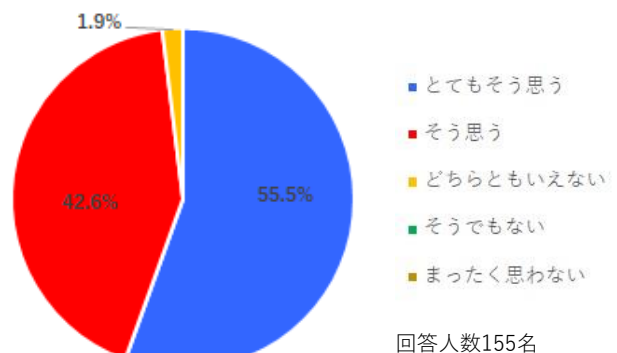
【ご協力いただいた診療科・研究室（順不同）】

循環器内科、消化器・肝臓内科、脳神経内科、産科婦人科学、放射線診断核医学、感染制御部、救急医学、総合医療学/総合診療科、臨床検査医学検査部、総合外科、呼吸器・アレルギー内科、小児科学、整形外科、眼科、機能形態学、生体構造学、生化学、応用生理学、遺伝発達行動学、細菌学、生体防御学、分子細胞生物学、公衆衛生学、教育研修支援センター教育研究部門

本日の医学科オープンキャンパスの満足度を5段階で評価してください



本日の医学科オープンキャンパスは、将来の進路を決める際の参考になりましたか？



フリーコメントより

- ・電子顕微鏡を自分で操作して、教科書では分からない学び方ができました。
- ・胃カメラの体験を通して、将来医師として働く姿をリアルに想像できました。
- ・新生児の蘇生トレーニングなど、ここでしかできない体験ができて、とても有意義な時間でした！



シミュレータ体験と研究室見学ツアーの様子

医療的ケア児等の支援に関わる看護師研修を開催

医療的ケア児の支援に携わる看護師の育成を目的とした研修を7月7日、28日に開催し、計39名が参加しました。本研修では、気管切開ケア、吸引、胃瘻管理、導尿などの基本的医療的ケアについて、講義とシミュレータを用いた実技演習を行いました。今年度は全4回の開催を予定しており、今後も地域における医療的ケア児支援に貢献できるよう研修を継続してまいります。



吸引・導尿など実技演習の様子



シナリオトレーニングセミナーを開催

今年度は、医学科生・研修医を対象に4回のシナリオトレーニングを開催しました。テーマと講師は以下のとおりです。

- ・第1回（6月18日）：「胸痛」 反町秀美先生
- ・第2回（9月22日）：「臨床推論セミナー」 松本謙太郎先生
- ・第3・4回（10月15日、11月19日）：「シン・臨床推論」 小和瀬桂子先生

延べ48名を超える参加者が、病歴聴取から身体診察、診断に至るまでのプロセスを体験的に学びました。セッションでは、心音聴診シミュレータ“イチローII A”や超音波トレーニングシミュレータ“バイメディックス”等を活用し、実践的なトレーニングを行いました。今後も継続的に開催を予定しています。ご興味のある方はぜひご参加ください。

臨床実習フォローアップセミナーを実施

医学部医学科6年生を対象に、基本的臨床手技の理解と修得を目的とした「臨床実習フォローアップセミナー」を、11月7日から12日にかけて全4回開催しました。計109名が参加し、採血、導尿、縫合などの基本手技を丁寧に確認・復習していました。スキルラボセンターでは、今後も卒前・卒後を通じたシームレスな学習環境の整備に努めてまいります。



基本手技トレーニングの様子

新規シミュレータ・機器の導入

本年度、新たに医療的ケア児モデルJANA、腰椎・硬膜外シミュレータ、バイタルサインシミュレータを導入しました。“医療的ケア児モデルJANA”は、気管切開ケアや経管栄養など、医療的ケア児支援に関する技術トレーニングを行うためのモデルです。“バイタルサインシミュレータ”は、心電図や血圧、SpO₂などのバイタルサインを再現できるため、モニター機器の動作確認のほか、モニターの見方やフィジカルアセスメント演習などの教育・訓練にも活用できます。学生実習や職員研修等、幅広くご活用ください。

*ご利用を希望される方は、スキルラボセンターホームページ (<https://mec.dept.showa.gunma-u.ac.jp/slc/>) よりお申込みください。

群馬県手術手技研修センター

スキルラボと連携して運営している群馬手術手技研修センターでは、ご遺体を用いたサージカルトレーニングを定期的で開催しております。今年度も2回の研修を行い、のべ40名の参加がありました。高難度あるいは新規手術手技や手術のトレーニング、新たな医療機器等の研究開発を行うことを通じて、医療の質と安全性の向上を図り、国民福祉への貢献を目指しております。

引き続き、充実した研修が行えるよう努めていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。研修についてご不明な点がございましたらいつでもお問い合わせください。

群馬手術手技研修センターのホームページ (<https://cst-gunma.med.gunma-u.ac.jp/>) も開設しておりますので、ぜひそちらもご覧ください。



研修実施前のガイダンスの様子

看護職キャリア支援部門

看護部キャリア支援部門の主な活動報告

看護部キャリア支援部門では、看護職の研修企画・運営および保健学研究科との連携推進、地域看護職の研修支援や看護学生の臨地実習支援等を行い、看護職の実践能力向上を支援しています。今年度、看護部では62名の新人看護職員を迎えました。コロナ禍での基礎教育課程を過ごした背景を踏まえ、技術的側面、精神的側面の両面からサポートできるよう、プリセプターシップ制度の「部署全体で新人を育てる」「共に学びあう」の基本理念のもと新人教育に取り組んでいます。また、今年度は新人看護職員のうち10名は他病院での経験者となります。前職場と当院の違いによる戸惑いを乗り越え、能力を発揮していけるよう、経験者のフォロー研修の開催回数を増やし支援をしています。

また、近年は医療の高度化が進み、看護職に求められている役割も多様化しており、思考力、問題解決能力、コミュニケーション力などがより求められます。そして、病院での看護の視点だけでなく地域生活を見据えた視点や多職種連携も重要となります。そのような現状に対応するために「臨床倫理」「臨床推論 & KIDUKI」「2年目看護師フォロー研修」「教育スキル向上研修」「入退院支援」といった研修も導入しています。今年度も引き続き、生涯にわたり研修を受け、成長・進歩し社会の要請に応えられるような看護職の育成を行ってまいりますのでよろしくお願いいたします。



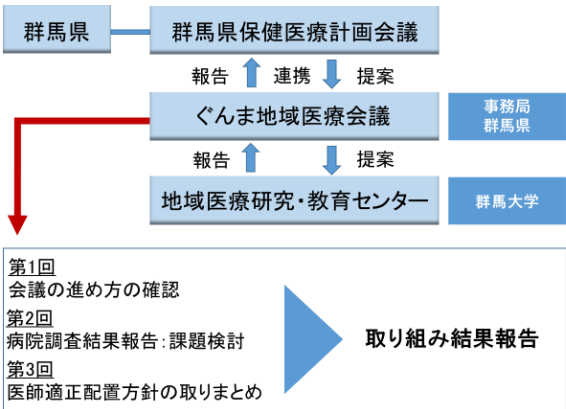
令和7年度アソシエーター6ヶ月フォロー研修

地域医療支援部門（ぐんま医療人ネットワーク）

医師の適正配置について

今年度も、群馬県内の病院を対象に調査を実施し、医師の勤務状況や、医師配置の要望等について把握いたしました。医師配置の要望等については、各診療科・医会へ照会し、いただいた意見を取りまとめ、必要に応じて意見交換を行わせていただきました。これらの結果は、「ぐんま地域医療会議」に報告し、医師の適正配置に向けた意見交換のための資料とさせていただきます。業務でご多忙の中、ご協力いただきありがとうございました。

ぐんま医療人ネットワークでは、医師偏在の解消を目指し、県と共に医師適正配置に向けての活動に取り組んでいきたいと考えております。ご意見等ありましたら、ぜひお寄せいただければと思います。



新任教員のあいさつ



新任のご挨拶

地域医療研究・教育センター地域医療支援部門
助教 金山 あずさ



2025年8月より地域医療研究・教育センター地域医療支援部門の助教に就任いたしました。群馬大学を卒業し、群馬大学医学部附属病院で初期研修を行ったのち、泌尿器科に入局しました。医師ワークライフプログラムを利用しながら、2児を出産し、現在は腎不全の管理、手術を中心に診療を行っています。今後は臨床業務に加えてセンターの活動を通じ、地域で求められる医療者の育成に貢献できればと考えております。微力ながら、精一杯尽力いたしますので、御指導の程お願い申し上げます。